

各種一覧

■分子科学フォーラム

回	開催日時	講演題目	講演者
第95回	平成24年10月20日	分子科学フォーラム特別版 平等 拓範准教授「マイクロレーザーが拓く、次世代火力発電・自動車エンジン」 秋山 修志教授 「タンパク質の奏でる生体リズム～生物はどのようにして時間をはかるのか?～」 正岡 重行准教授「植物から学べ! 人工光合成」	
第96回	平成25年2月8日	現代の食品工業における技術革新	宮島 清一(宮島醤油(株)代表取締役社長)

■分子研コロキウム

回	開催日時	講演題目	講演者
第840回	平成24年9月25日	Ultrafast Chemical Dynamics from Raman Spectroscopy	Siva Umamathy (Indian Institute of Science 教授)
第841回	平成24年9月27日	What do we learn about photosynthetic light harvesting from long-lived electronic coherence?	石崎 章仁(分子科学研究所 若手独立フェロー)
第842回	平成24年11月16日	Structural basis for light-gated cation conductance by channelrhodopsin	濡木 理(東京大学大学院理学系研究科 教授)
第843回	平成25年1月18日	Structural Science of Nanocarbon Molecules: A Synthetic Approach from Organic Chemistry	磯部 寛之(東北大学大学院理学研究科 教授)

■人事異動(平成24年6月2日～平成24年11月1日)

異動年月日	氏名	区分	異動後の所属・職名	現(旧)の所属・職名	備考
24.6.15	香月 浩之	辞職	奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科 准教授	光分子科学研究領域 光分子科学第二研究部門 助教	
24.7.1	河津 励	勤命	理論・計算分子科学研究領域(金沢大学理工研究域勤務) 特任研究員	理論・計算分子科学研究領域(京都大学 福井兼一記念研究センター勤務) 特任研究員	
24.7.31	藤澤 敏孝	辞職	総合研究大学院大学 特任教授	生命・錯体分子科学研究領域 生体分子機能研究部門 専門研究職員	
24.8.20	Haifeng Zhou	辞職		生命・錯体分子科学研究領域 錯体触媒研究部門 研究員	
24.9.1	須田 理行	採用	物質分子科学研究領域 電子物性研究部門 助教		
24.9.1	向山 厚	採用	生命・錯体分子科学研究領域 生体分子情報研究部門 助教		
24.9.16	KITYAKARN, Sutasinee	採用	物質分子科学研究領域 電子構造研究部門 研究員		
24.9.16	新谷 敦子	採用	生命・錯体分子科学研究領域 生体分子情報研究部門 技術支援員	基礎生物学研究所 時空間制御研究室 技術支援員	
24.9.30	見附 孝一郎	兼任	(城西大学 理学部 教授)	光分子科学研究領域 光分子科学第三研究部門 教授(兼任)	
24.9.30	浅利 智恵	退職		光分子科学研究領域 光分子科学第三研究部門 技術支援員	
24.10.1	山本 浩二	採用	生命・錯体分子科学研究領域 錯体物性研究部門 助教		
24.10.2	XU, Yanhong	採用	物質分子科学研究領域 分子機能研究部門 研究員		
24.10.12	Wu, Huijun	辞職		光分子科学研究領域 光分子科学第一研究部門 技術支援員	
24.10.15	櫻井 理恵	辞職	株式会社サムスン 横浜研究所 研究員	分子スケールナノサイエンスセンター ナノ分子科学研究部門 研究員(IMSフェロー)	
24.10.31	中川 剛志	辞職	九州大学 大学院総合理工学研究院 准教授	物質分子科学研究領域 電子構造研究部門 助教	
24.10.31	田中 誠一	辞職	東京工業大学 博士研究員	極端紫外光研究施設 光源加速器開発研究部門 研究員	

編集後記

分子研レターズ67号も、数多くの受賞、研究会活動、共同研究ハイライト、海外との交流の報告など充実した内容で、分子研のアクティビティの高さをお伝えすることができたかと思えます。また、一般公開の手応えなど、社会と分子研とのかわりを考えるうえで興味深い記事もお楽しみいただけものと思います。ご多忙な時間を割いて、ご寄稿いただいた執筆者の皆様に心よりお礼申し上げます。

67号は明大寺キャンパスの紅葉の美しさを印象づけます。そういえば、紅葉を前に写真を撮っているときに、大峯所長に「植物は何のために紅葉するのだけ？」と突然尋ねられて返事に窮してしまいました。あらためてインターネットで調べましたところ、植物が自身にとって直接役に立たないアントシアンのような色素を十分に合成できる余裕があるということは耐性（免疫学的余裕）のデモンストレーションとなり、そのため色を識別できる害虫はより鮮やかな紅葉を示す植物には寄生するのを避けるのだという説があるそうです。なにやら示唆に富む話です。

ともあれ、この67号が皆様の手元に届く頃には、寒かった冬が過ぎて、そろそろ岡崎の桜も春の彩に向けて準備を整えていることでしょう。

編集担当 加藤 晃一

分子研レターズ編集委員会よりお願い

■ご意見・ご感想

本誌についてのご意見、ご感想をお待ちしております。また、投稿記事も歓迎します。下記編集委員会あるいは各編集委員あてにお送りください。

■住所変更・送付希望・送付停止を希望される方

ご希望の内容について下記編集委員会あてにお知らせ下さい。

分子研レターズ編集委員会

FAX : 0564-55-7262

E-mail : letters@ims.ac.jp

<http://www.ims.ac.jp/know/publication.html>

I M S Letters

分子研と研究者をつなぐ

VOL. 67

分子研レターズ

発行日 平成25年3月（年2回発行）
発行 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構
分子科学研究所
分子研レターズ編集委員会
〒444-8585
愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38
編集 小 杉 信 博（委員長）
加 藤 晃 一（編集担当）
大 迫 隆 男
木 村 真 一
斉 藤 真 司
江 東 林
西 村 勝 之
藤 貴 夫
古 谷 祐 詞
柳 井 毅
原 田 美 幸（以下広報室）
鈴 木 さとみ
中 村 理 枝
デザイン 原 田 美 幸
印刷 株式会社コームラ

本誌記載記事の無断転載を禁じます